

平成 20 年 10 月 7 日
文部科学省 科学技術政策研究所

ポストドクター等の研究活動及び生活実態に関する分析

科学技術政策研究所は、ポストドクターの研究環境等の実態を明らかにするため、ポストドクター約 1,000 人に対して、インターネット調査を 2007 年 11 月から 2008 年 1 月にかけて実施し、研究活動と生活実態に関する調査結果をとりまとめました。その結果、ポストドクターの任期は平均 2.7 年、平均月給は約 306,000 円であること、また、研究活動には大部分の者が、雇用条件については半数程度の者が満足していること等が明らかになりました。

我が国における大学、公的研究機関等に、調査期間中に所属しているポストドクター等の 1 割を調査対象者として抽出してもらい（性別と研究分野の比率に比例させて抽出）、この調査対象者にウェブページ上の調査票へ回答してもらいました。有効回答者数は 1,035 名、有効回答率は 66%です。この調査によって、以下のことが明らかになりました。

- ① ポストドクター等としての任期は平均 2.7 年である。
- ② 我が国におけるポストドクター等の平均月給は、税込みで約 306,000 円と推測される。
- ③ ポストドクター等の業務内容の中身は「自分の主たる研究」が 7 割、「自分の研究以外の研究・教育業務」が 1.7 割、「その他の業務（雑務）」が 1.3 割である。
- ④ 研究上の自立性について、「論文の執筆」に関してはある程度以上あると答えたポストドクターが 50%以上であるのに対して、「問題のあるプロジェクトの中止」に関しては 20%程度である。
- ⑤ ポストドクター等の 1 年あたりの研究業績は、査読付論文本数で平均 1.6 本、紀要論文本数で平均 0.3 本、学会発表回数で平均 3.4 回である。

⑥ 満足感について

- ・ポストドクター等としての研究活動には大部分の者が、雇用条件については半数程度の者が満足している。
- ・日本学術振興会の特別研究員に代表されるフェローシップ型のポストドクターの満足感が高い。
- ・ポストドクター等としての期間が長い者の方が「ポストドクターを選択したこと」、「生活全体」への満足感が低くなる傾向がある。

(お問い合わせ)

科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

担当：褓岩（ほろいわ）、三須

TEL: 03-3581-2395 (直通) FAX: 03-3503-3996

E-mail: 1pg@nistep.go.jp

調査結果の概要

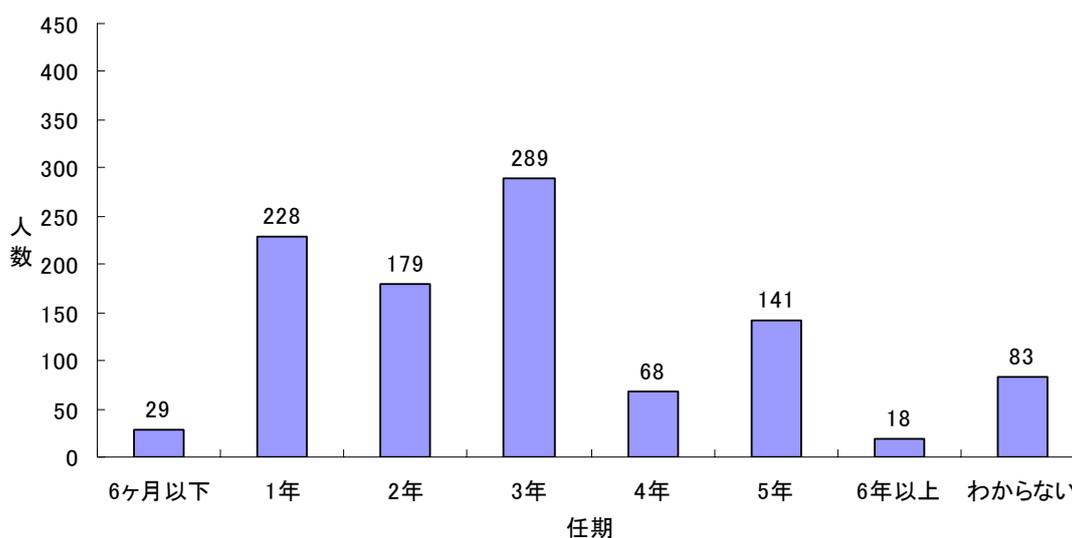
我が国における大学、公的研究機関等に、調査期間中に所属しているポストドクター等の1割を調査対象者として抽出してもらい（性別と研究分野の比率に比例させて抽出）、この調査対象者にウェブページ上の調査票に回答してもらった。有効回答者数は1,035名、有効回答率は66%であった。主要な結果は、以下のとおりである。

1. 雇用状況

ポストドクター等の雇用状況を明らかにするため、任期、給与等について調べた。

- ポストドクター等としての任期は平均2.7年。

図1：ポストドクター等の任期



- ポストドクター等の平均月給は、税込みで約306,000円であり、男性の平均は約314,000円、女性は約282,000円である。
- 研究分野別に平均給与を見ると、最も高い工学系で約330,000円、最も低い人社系で約213,000円と10万円以上の差が見られる。

表1：ポストドクター等の平均給与（推計値）

		(単位:千円)
項目		平均値
	全体(1035名)	306
性別	男性(780名)	314
	女性(255名)	282
研究分野	人社(121名)	213
	理学(397名)	329
	工学(223名)	330
	農学(126名)	287
	保健(153名)	307
	その他(15名)	260

2. 研究活動

ポストドクター等の研究活動を明らかにするため、専用の机やパソコン、インターネットのアクセス権等の研究環境や、ポストドクター等としての業務内容、研究上の自立性等を調べた。

- 専用の机が用意されている者が96%、専用パソコンについては64%。
- 財源別では、所属機関と雇用関係のない者において、研究環境が整備されている比率が低い。

表2：ポストドクター等の研究環境（用意されている者の比率）

項目	専用の机	専用のパソコン	機関発行の身分証明	インターネットのアクセス権	電子メールアドレス	図書館の利用資格
全体(1035名)	95.9%	64.3%	82.3%	97.8%	95.5%	93.7%
21世紀COE(112名)	99.1%	50.0%	85.7%	98.2%	95.5%	99.1%
科学研究費補助金(135名)	98.5%	57.0%	85.2%	97.8%	92.6%	92.6%
日本学術振興会特別研究員(87名)	90.8%	40.2%	64.4%	95.4%	90.8%	87.4%
雇用関係なし(27名)	44.4%	14.8%	70.4%	85.2%	70.4%	77.8%
運営費交付金等(232名)	97.4%	73.3%	86.2%	98.7%	97.8%	94.8%

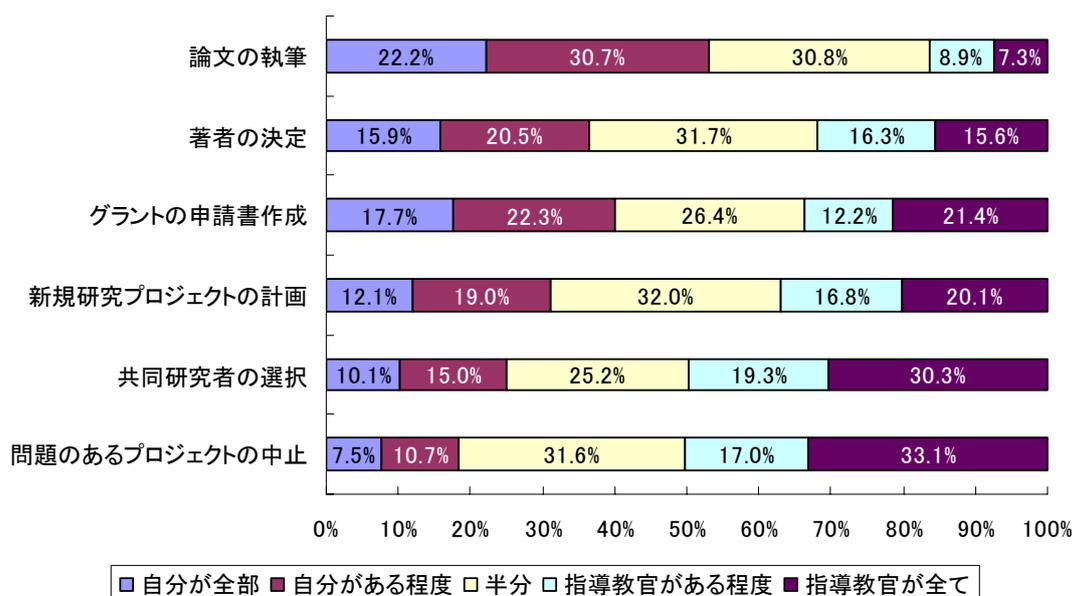
- ポストドクター等としての業務内容は、平均すると「自分の主たる研究」が7割、「自分の研究以外の研究・教育業務」が1.7割、「その他の業務（雑務）」が1.3割。

図2：ポストドクター等の業務内容

自分の研究 6.9割	その他の研究・教育活動 1.7割	その他（雑務） 1.3割
---------------	---------------------	-----------------

- 「論文の執筆」に関してある程度以上の自立性があると答えたポストドクター等が50%以上であるのに対して、「問題のあるプロジェクトの中止」に関しては20%程度である。

図3：ポストドクター等の研究活動における決定権



3. 研究業績

ポストドクター等の研究活動の成果を把握するため、査読付論文本数等の研究業績を調べた。

- ポストドクター等の1年当たりの研究業績の推計値は、査読付論文本数で平均1.6本、紀要論文本数で平均0.3本、学会発表回数で平均3.4回。
- 査読付論文本数では工学系が一番多い。

表3：ポストドクター等の研究業績（1年あたりの推計値）

項目	内ファースト		紀要論文	学会発表
	査読付論文	オーサー		
全体(1035名)	1.60	0.74	0.34	3.37
研究分野				
人社(121名)	0.87	0.73	0.61	1.94
理学(397名)	1.57	0.69	0.34	3.07
工学(223名)	2.45	1.08	0.35	5.14
農学(126名)	1.39	0.64	0.28	3.30
保健(153名)	1.25	0.48	0.14	2.81
その他(15名)	1.21	0.70	0.32	2.72

- 海外での研究経験がある者は、査読付論文本数が多い。

表4：流動性から見たポストドクター等の研究業績（1年あたりの推計値）

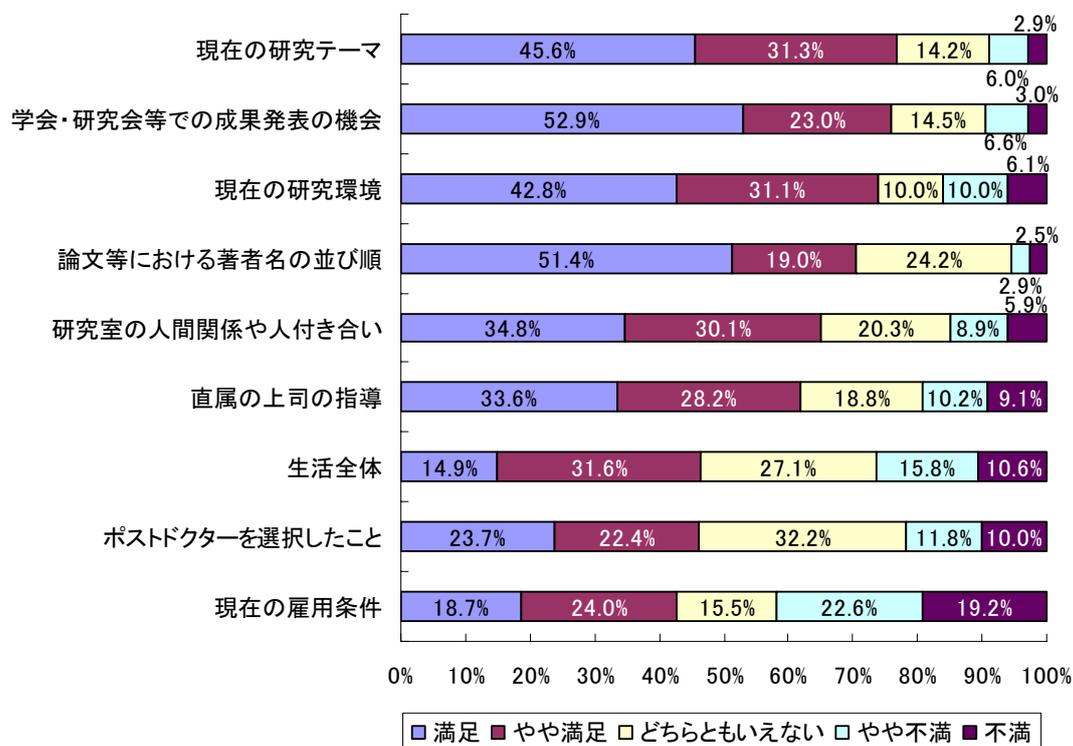
項目		査読付論文	内ファースト オーサー
	全体(1035名)	1.60	0.74
博士号 取得機関	同じ機関(349名)	1.59	0.79
	他の国内(658名)	1.52	0.67
	他の海外(28名)	3.82	1.81
他機関での ポストドクター 経験	経験なし(675名)	1.42	0.70
	国内他機関(263名)	1.56	0.68
	海外他機関(49名)	4.02	1.34
	国内・海外両方(48名)	1.98	1.07

4. 研究・生活への満足感

ポストドクター等に対して、現在の研究テーマや研究環境、ポストドクターを選択したこと、生活全体等への満足感を尋ねた。

- ポストドクター等としての研究活動には大部分の者が満足しているが、生活全体、ポストドクターを選択したこと、現在の雇用条件に満足している者は半数程度である。

図3：ポストドクター等の研究・生活への満足感



- 工学系は「現在の雇用条件」、「研究室の人間関係や人付き合い」、「生活全体」で高い満足感を示しており、人社系は「ポストドクターを選択したこと」に対する満足感が高くなっている。一方、人社系は「現在の研究環境」に対する満足感が低く、保健系では「現在の雇用条件」、「論文等における著者名の並び順」、「生活全体」、農学系では「ポストドクターを選択したこと」が低くなっている。
- 日本学術振興会特別研究員に代表されるフェローシップ型のポストドクター等の満足感が高い。

表5：ポストドクター等の研究・生活への満足感

項目	現在の研究テーマ	現在の研究環境	現在の雇用条件	研究室の人間関係や人付き合い	研究論文等における著者名の並び順	ポストドクターを選択したこと	生活全体	
全体(1035名)	76.9%	73.9%	42.7%	64.9%	70.4%	46.1%	46.5%	
性別	男性(780名)	76.5%	74.2%	41.7%	64.4%	72.2%	46.0%	44.9%
	女性(255名)	78.0%	72.9%	45.9%	66.7%	65.1%	46.3%	51.4%
研究分野	人社(121名)	81.8%	65.3%	42.1%	69.4%	69.4%	55.4%	48.8%
	理学(397名)	78.1%	77.8%	41.1%	61.5%	71.8%	46.3%	47.1%
	工学(223名)	74.4%	74.0%	52.0%	71.3%	73.5%	47.1%	50.2%
	農学(126名)	77.0%	73.0%	42.1%	65.1%	72.2%	34.9%	40.5%
	保健(153名)	75.8%	73.9%	35.3%	61.4%	64.7%	47.7%	44.4%
	その他(15名)	53.3%	46.7%	33.3%	60.0%	40.0%	26.7%	26.7%
主要財源	21世紀COE(112名)	72.3%	70.5%	42.0%	63.4%	68.8%	48.2%	43.8%
	日本学術振興会特別研究員(87名)	85.1%	77.0%	40.2%	62.1%	80.5%	65.5%	69.0%
	その他のフェローシップ(19名)	94.7%	84.2%	42.1%	84.2%	68.4%	68.4%	68.4%
	雇用関係なし(27名)	70.4%	29.6%	0.0%	44.4%	51.9%	25.9%	3.7%
	運営費交付金等(232名)	77.6%	75.0%	48.3%	66.4%	75.0%	42.7%	48.7%

※「満足」、「やや満足」と答えた者の比率。「直属の上司の指導」と「学会・研究会等での成果発表の機会」は省略。

- 研究に対する満足感は、ポストドクター等としての経験年数とあまり関係がない。一方、「ポストドクターを選択したこと」、「生活全体」への満足感は、ポストドクター等としての期間の長いの方が低くなる傾向が見られる。

表4：ポストドクター等としての経験年数と満足感

